

分担研究報告書

函館市における発達障害支援の経時的推移に関する研究

研究代表者 本田 秀夫（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室）
研究協力者 廣瀬 三恵子（函館中央病院小児科、小児科医）
高橋 和俊（おしま地域療育センター所長、小児科医）
須佐 史信（はこだて療育・自立支援センター診療所所長、小児科医）
加藤 知子（かとうメンタルクリニック副院長、精神科医）
高橋 実花（発達障害者支援センターあおいそら、小児科医）

研究要旨：発達障害の子どもの支援ニーズの経時的推移状況について、函館市における同一コホート（平成 25 年度の小学校 1 年生集団）による調査を行った。教育機関への調査では、対象となる小学校、特別支援学校に対してアンケート調査を行い、全校から回答を得た。発達に遅れや偏りのある児童生徒の割合は 10.5%、特徴種別割合は自閉スペクトラム症 4.8%と最も多く、次いで精神遅滞 1.4%、注意欠如多動症 1.2%と続いた。発達に遅れや偏りがある児童生徒での不登校割合は 0.4%、反抗挑戦性障害の割合は 1.1%、素行障害の割合は 0.1%であった。平成 25 年度当初小学校 1 年生のコホート群での発達の遅れや偏りを認める子どもの割合は、小学校 2 年生から同 6 年生まで 10～11%台で推移し、特徴種別では、全学年を通して自閉スペクトラム症が最多で 46～56%と半数を占めていた。医療機関への調査では、小児の発達障害を診断している函館市内医療機関 4 施設を対象に、平成 25 年度の小学校 1 年生集団の同一コホートについてアンケート調査を行い、全施設から回答を得た。医療機関診断数による有病率は 5.1%だった。主診断別割合は自閉スペクトラム症が 83.0%、注意欠如多動症 16.0%、精神遅滞 1.4%であり、教育機関調査同様、自閉スペクトラム症の割合が高かった。診断時年齢別割合は、男児の就学前診断率が高く、男女合計では就学前後はほぼ同数であった。併存症診断では、自閉スペクトラム症では注意欠如多動症の併存症の割合が高く、IQ70 以上では約半数に併存が認められた。平成 25 年度当初小学校 1 年生のコホート群の比較では、小学校 2 年生、5 年生、6 年生の有病率は 5%台を推移し、主診断別割合は一貫して自閉スペクトラム症が約 8 割を占めていた。

A. 研究目的

本研究では、発達障害の支援ニーズと支援システム実態の把握のため、発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価（平成 25～27 年度）、

および、発達障害の子どもの支援ニーズの経時的推移に関する多地域調査（平成 28～29 年度）を行ってきた。

今年度の本研究の目的は、これまでの調査を継続し、函館市の発達障害児支援ニ

ズの6年間の推移状況を明らかにすること、および、今後の課題について検討することである。

B. 研究方法

1) 教育機関調査

平成30年度、函館市教育委員会、北海道教育局および渡島教育局の協力を得て、函館市立小学校46校および函館市在住の児童生徒が在籍している函館市および近隣の道立特別支援学校(盲・聾・養護学校)5校にアンケートへの回答を依頼した。

調査対象は平成30年4月2日現在で函館市に住所のある小学校6年生であり、これらは平成25~27年度(平成25年度の小学校1年生)および平成28~29年度(平成28年度の小学校4年生)の調査対象と同一コホートである。調査項目は、男女別在籍児童・生徒数、発達に何らかの遅れや偏りを持つ児童・生徒とその特徴(困難)の種類、医療機関受診の有無、受診していない場合にはその理由、不登校の数である。

このうち発達の遅れや偏りの特徴は、(1)広汎性発達障害 (2)多動性障害 (3)コミュニケーション障害・構音障害 (4)学習障害 (5)精神遅滞 (6)吃音・選択性緘黙・チック等その他、(7)境界知能の7種類に分け、複数の特徴がみられる場合には番号の小さい項目に分類した。

また、知的障害や発達障害をベースした反抗挑戦性障害や素行障害の児童生徒の人数を調査した。反抗挑戦性障害は「しばしば、イライラし、腹を立て、癩癩を起こし、大人の要求や規則に逆らうなど著しく反抗的な特性を有すると思われる」場合、素行障害については、平成29年度に「暴行、器物破損、

放火、窃盗、家出、街の徘徊などの触法行為が認められた」場合と定義した。

これらの特徴はあくまでも教育現場の判断とし、医学的診断の有無については問わなかった。

不登校については、文部科学省の定義「年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的な理由を除き、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいは、したくてもできない状況にある者」に従い、平成29年度に上記の定義に当てはまる状態があった場合とした。

アンケートの送付および回収は、函館市立の学校については函館市教育委員会に依頼した。特別支援学校については、北海道教育局および渡島教育局の許可を得て、個別に郵送し、郵送により回収した。

平成25年度に小学校1年生だったコホートは今年度で6年目になり、小学校1年生から6年生までの6年間毎年度の追跡調査が行われたことになる。

2) 医療機関調査

函館中央病院倫理委員会での承認を得て、平成30年度に実施した。調査対象となる医療機関は、函館市内で発達障害児の診断を行う4医療機関(ゆうあい会石川診療所、はこだて療育・自立支援センター、かとうメンタルクリニック、函館中央病院小児科)である。調査対象者は、上記医療機関を受診し、現在も通院している函館市在住の平成30年度の小学校6年生で、教育機関調査と同一コホートである。診療録等から、性別、診断名、診断を受けた年齢、知能指数を調査した。同様の調査は、平成26年度(小学校2

年生)、平成 29 年度(小学校 5 年生)を対象に行っており、小学校 2 年生、5 年生、6 年生時点との比較を行うことができた。

(倫理面への配慮)

学校へのアンケートに関しては、データはすべて集計による解析とし、個別の子どもが特定されることがないようにした。

医療機関への調査では、個人を特定できないよう、イニシャルと生年月日によるデータとした。複数医療機関を受診した児童生徒の重複を防ぐため、集計段階で、イニシャル・性別・生年月日により照合し、後年に診断を受けた群に集約した。

C. 研究結果

1) 教育機関調査

函館市立小学校 46 校、道立特別支援学校 5 校への依頼に対して、全校から回答を得た。うち小学校 1 校が無効回答だったため、集計から除外した。

小学校 6 年生在籍人数は 1742 人(男 916 人、女 826 人)、そのうち発達の遅れや偏りのある児童は 185 人(男 141 人、女 44 人)で、全児童数に占める割合は 10.5%(男 15.2%、女 5.3%)だった。医療機関受診を学校で把握している児童生徒は 5.3%(93 人)だった。

特徴種別割合では、自閉スペクトラム症 46.2%(85 人)と全体の約半数を占め、次いで、精神遅滞 13.6%(25 人)、注意欠如多動症 11.2%(21 人)、学習障害 8.7%(16 人)と続いた。男女別では、男女とも自閉スペクトラム症が最多で、注意欠如多動症は男 14.2%(20 人)、女 2.3%(1 人)と男児で注意欠如多動症の割合が高かった。特徴種別

で医療機関受診ありの場合、自閉スペクトラム症 71.0%(66 人)、精神遅滞 11.8%(11 人)、注意欠如多動症 8.6%(8 人)、学習障害 3.2%(3 人)であった。医療機関受診あり・男女別でも、自閉スペクトラム症が最多なのは同様で、精神遅滞が男 8.5%(6 人)、女 22.7%(5 人)と女児に精神遅滞の割合が高かった。

医療機関未受診の理由では「受診の必要性を感じていない」が最も多く、「家族の理解が得られない」がそれに次ぎ、その他の回答は少数だった。

発達に遅れや偏りがある児童生徒の不登校率は対全児童数割合で 0.4%(7 人)で、医療機関受診がある場合には 0.3%(5 人)であった。うち不登校児童生徒の特徴種別対全児童数割合では、自閉スペクトラム症 0.2%(3 人)、その他 0.1%(2 人)、注意欠如多動症 0.1%(1 人)、精神遅滞 0.1%(1 人)であった。男女別では、男 0.6%(6 人)、女 0.1%(1 人)と男児に多く認められた。

発達に遅れや偏りがある児童生徒では、反抗挑戦性障害の特徴は対全児童数割合で 1.1%(19 人)であり、医療機関受診がある児童生徒は 0.6%(10 人)だった。特徴種別対全児童数割合では、自閉スペクトラム症 0.6%(11 人)、精神遅滞 0.2%(4 人)、注意欠如多動症 0.1%(2 人)であった。男女別では、男 1.9%(18 人)、女 0.1%(1 人)と男児に多く認められた。

発達に遅れや偏りがある児童生徒では、素行障害の特徴は対全児童数割合で 0.1%(2 人)に認められ、医療機関受診がある児童生徒は 0.1%(2 人)で、男 0.2%(2 人)であった。素行障害の特徴を持つ児童生徒は反抗挑戦性障害の特徴を持つ児童生徒の約

1/10であった。

2) 医療機関調査

小児の発達障害を診断する函館市内の医療機関4施設へ依頼し、全施設から有効回答を得た。発達障害と診断された小学校6年生の受診者は88人(男70人、女18人)で、小学校6年生全体に占める有病率は5.1%だった。学校が医療機関受診把握している5.3%よりわずかに低かった。この結果は、小学校6年生までに学校は医療機関受診をほぼ把握しているが、医療機関受診中断例があると考えられた。

主診断別割合は自閉スペクトラム症が83.0%(73人)、注意欠如多動症16.0%(14人)、精神遅滞1.4%(1人)だった。男女とも自閉スペクトラム症が圧倒的に多く、学校調査の「医療機関受診あり」での自閉スペクトラム症の割合(76.1%)と比較しても高い割合を示していた。

診断時年齢別割合は、就学前が男児51.4%(36人)、女児27.8%(5人)で、男児の就学前診断率が高く、男女合計では就学前46.6%(41人)であった。主診断別診断時年齢別割合は、自閉スペクトラム症では就学前52.1%だが、注意欠如多動症では小学校5年生28.6%、小学校3年生時21.4%と就学後が圧倒的に多かった。

併存症診断では、自閉スペクトラム症の併存診断別割合は注意欠如多動症が29.5%(26人)で、他の診断は2.3%(2人)だった。自閉スペクトラム症と注意欠如多動症の併存の男女比は男31.4%(22人)、女22.2%(4人)と男児の割合が高かった。また、IQ69以下では注意欠如多動症併存が5.3%(1人)、IQ70以上では36.2%(25人)とIQ70以上に

併存例が多く認められた。

境界知能であって知的障害や発達障害の診断がついていない児童生徒や、反抗挑戦性障害または素行障害と診断されている子どもは該当がなかった。

D. 考察

教育機関からのアンケート回収率が低かった平成25年度は参考値に留め、原則として平成26年度から30年度までのデータをもとに考察した。

発達の遅れや偏りを認める子どもの割合は、平成25年度当初小学校1年生のコホート群では、小学校2年生から同6年生まで10~11%台で推移していた。

特徴種別では、小学校1年生から同6年生を通じて自閉スペクトラム症が最多で46~56%と半数を占めていた。注意欠如多動症は小学校3年生で26%とピークに達し、小学校5、6年生では13%に減少していた。このことは、落ち着きのなさ等の多動症状は、低学年時は年齢の低さによるものと判断されがちなことや、学年が上がるにつれ多動症状自体が軽減することとも関連すると考えられる。精神遅滞と判断された児童は、注意欠如多動症とは反対に、小学校3年生にかけて8%まで減少し、その後15%台に増加する「V字型」の増減を示していた。学習障害と判断された児童は小学校2年生から9~12%の割合で推移していた。軽度精神遅滞児童は低学年では学習理解に時間を要するが、ある程度学習基礎を身につけると学習困難は一時期さほど目立たなくなるものの、高学年で学習内容が高度になり学習進度が速くなると再度学習困難が明らかとなる。そのため、このようなV字型の増減を示す

と考えられる。学習障害の割合変化が少ないのは、軽度の学習障害は高学年になって学習困難が明らかとなってくるが、重度の学習障害例は精神遅滞例と判断される可能性があり、数が打ち消しあうために割合変化が少ないのではないかと推察された。

一方、平成 25 年度当初小学校 6 年生のコホート群(平成 13 年～14 年生まれ)では、発達の遅れや偏りの割合は、小学校 6 年生を含めても、5～7%台で推移している。この 2 群の差異は、小学校と中学校教師の生徒の行動面・学習面の把握の仕方によることや中学校教師の発達障害に関する知識不足の可能性もあるが、平成 25 年度当初小学校 1 年生のコホート群(平成 18 年～19 年生まれ)との間には何らかの質的な差が存在する可能性も疑われた。

発達に遅れや偏りがある児童生徒の不登校は対全児童数の 0.1～0.4%であり、学年が上がるにつれて増加していた。特徴種別では自閉スペクトラム症が多く、自閉スペクトラム症は集団適応が困難な例が低学年から一定少数存在すると思われた。

医療機関調査では、平成 26 年度小学校 2 年生、平成 29 年度小学校 5 年生、平成 30 年度小学校 6 年生時点での同一コホートを比較した。

小学校 2 年生の診断数 106 人、小学校 2 年生児童全体に対する有病率 5.5%、小学校 5 年生の診断数 90 人、有病率 5.1%、小学校 6 年生の診断数 88 人、有病率 5.1%と有病率は 5%台を推移した。診断実人数の減少は受診中断例や転出によると思われた。主診断別割合は一貫して自閉スペクトラム症が 8 割を占め、これは医療機関では自閉スペクトラム症を優先診断する傾向があるためと

推察される。一方、平成 30 年度の併存症診断調査結果では、自閉スペクトラム症の併存症は IQ により大きく異なる結果が得られた。IQ69 以下では併存例が診断別割合で 8.3% (1 人) に対し、IQ70 以上では注意欠如多動症の併存が 44.6% (25 人)、その他が 3.6% (2 人) と、約半数に注意欠如多動症の併存が認められた。DSM-IV や DSM-IV-TR の頃から自閉スペクトラム症と注意欠如多動症の症状併存は報告され、その併存割合は 20-70%とかなり多い。今回の医療機関調査はこれまでの報告の裏付けとなる結果であった。

しかしながら、併存症診断では注意欠如多動症以外の割合が著しく低く、教育機関調査での学習障害や精神遅滞の特徴の比率との明らかな差異が認められた。医療機関では心理検査は全例施行されており精神遅滞の診断はされていることから、この差異の理由としては、医療機関で学習障害の診断があまりされていない可能性と、学習面での困難のみでの医療機関受診が少ない可能性がある。

今後の課題としては、1 つは、平成 25 年度当初小学校 1 年生のコホート群と小学校 6 年生のコホート群との間で、発達の遅れや偏りの割合に差があることから、この差の原因を調べる事が挙げられる。そのため、さらに数年間同一コホートの追跡調査を行うことも必要であろう。もう 1 つは、医療機関での学習障害の診断率の低さから、医療機関での学習障害診断をより積極的に行うことや、学校で学習障害が疑われる例についての医療機関受診を促す必要性があること等が課題として挙げられる。

E. 結論

今回の調査では、発達に遅れや偏りのある児童生徒の割合は10.5%、特徴種別割合は自閉スペクトラム症の割合が高かった。医療機関での診断数による有病率5.1%で、主診断別割合は教育機関調査と同様、自閉スペクトラム症の割合が高かった。これらは、これまでの調査とほぼ同様の結果であった。

医療機関の併存症診断では、自閉スペクトラム症では注意欠如多動症の併存症の割合が高く、IQ70以上では約半数に併存が認められた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

・高橋和俊、須佐史信：「発達障害が疑われる児童生徒の不登校」日本小児科学会学術集会第121回総会、2018年4月

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

H. 参考文献

- 1) 高橋和俊：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業分担研究報告書：函館市在住の小学生における発達に遅れや偏りのある子どもに関する調査-平成26年度総括・分担研究報告書（H25-身体・知的-一般-008）, 2014.
- 2) 高橋和俊ら：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業分担研究報告書：函館市における発達に遅れや偏りのある子どもに関する医療機関調査-平成26年度総括・分担研究報告書（H26-身体・知的-一般-008）, 2015.
- 3) 高橋和俊：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業分担研究報告書：函館市在住の小中学生における発達に遅れや偏りのある子どもに関する調査（平成26年度調査）（修正版）-平成27年度総括・分担研究報告書（H26-身体・知的-一般-008）, 2016.
- 4) 高橋和俊：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業分担研究報告書：函館市在住の小中学生における発達に遅れや偏りのある子どもに関する調査（平成27年度調査）-平成27年度総括・研究報告書（H26-身体・知的-一般-008）, 2016.
- 5) 須佐史信ら：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業分担研究報告書：函館市における発達障害支援の継時的推移に関する研究-平成29年度総括・分担研究報告書（H28-身体・知的-一般-001）, 2018.
- 6) Matson JL, et al: The relationship between autism spectrum disorders and attention-deficit/hyperactivity disorder: an overview. Res Dev Disabil, 34(9):2475-84, 2013.

表 1-2 発達に遅れや偏りを持つ子どもの特徴の種別ごと内訳

特徴の種別	男 (全児童数 n=916)			女 (全児童数 n=826)			計 (全児童数 n=1742)			
	実数	対全児童%	種別割合%	実数	対全児童%	種別割合%	実数	対全児童%	種別割合%	
医療機関 受診あり	自閉スペクトラム症	67	7.2%	47.5%	18	2.2%	40.9%	85	4.8%	46.2%
	注意欠如多動症	20	2.2%	14.2%	1	0.1%	2.3%	21	1.2%	11.4%
	コミュニケーション障害	4	0.4%	2.8%	1	0.1%	2.3%	5	0.3%	2.7%
	学習障害	11	1.2%	7.8%	5	0.6%	11.4%	16	0.9%	8.7%
	精神遅滞	16	1.7%	11.3%	9	1.1%	20.5%	25	1.4%	13.6%
	その他	5	0.5%	3.5%	2	0.2%	4.5%	7	0.4%	3.8%
	境界域知能	5	0.5%	3.5%	1	0.1%	2.3%	6	0.3%	3.3%
	不明	13	1.4%	9.2%	7	0.8%	15.9%	20	1.1%	10.9%
	計	141	15.2%	100%	44	5.3%	100%	184	10.5%	100%
	自閉スペクトラム症	54	5.8%	76.1%	12	1.4%	54.5%	66	3.8%	71.0%
注意欠如多動症	8	0.9%	11.3%	0	0.0%	0.0%	8	0.5%	8.6%	
コミュニケーション障害	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	4.5%	1	0.1%	1.1%	
学習障害	1	0.1%	1.4%	2	0.2%	9.1%	3	0.2%	3.2%	
精神遅滞	6	0.6%	8.5%	5	0.6%	22.7%	11	0.6%	11.8%	
その他	1	0.1%	1.4%	1	0.1%	4.5%	2	0.1%	2.2%	
境界域知能	1	0.1%	1.4%	1	0.1%	4.5%	2	0.1%	2.2%	
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	
計	71	7.7%	100%	22	2.7%	100%	93	5.3%	100%	

表2 医療機関受診率

特徴の種別	男			女			合計		
	受診不問	受診あり	受診率%	受診不問	受診あり	受診率%	受診不問	受診あり	受診率%
	自閉スペクトラム症	67	54	80.6%	18	12	66.7%	85	66
注意欠如多動症	20	8	40.0%	1	0	0.0%	21	8	38.1%
コミュニケーション障害	4	0	0.0%	1	1	100.0%	5	1	20.0%
学習障害	11	1	9.1%	5	2	40.0%	16	3	18.8%
精神遅滞	16	6	37.5%	9	5	55.6%	25	11	44.0%
その他	5	1	20.0%	2	1	50.0%	7	2	28.6%
境界域知能	5	1	20.0%	1	1	100.0%	6	2	33.3%
不明	13	0	0.0%	7	0	0.0%	20	0	0.0%
計	141	71	50.4%	44	22	50.0%	185	93	50.3%

表3 医療機関を受診しない理由

	実数
家族も受診の必要性は感じていないが受診に抵抗あり	1
学校は受診の必要性を感じているが家族の理解が得られない	16
ほかに相談する場所がある	1
なんとなく	3
家族も学校も受診の必要性を感じていない	30
経済的理由	1
宗教的理由	0
不明	0
その他	4

表4 不登校

特徴の種類別	男 (全児童数 n=916)				女 (全児童数 n=826)				合計 (全児童数 n=1742)				
	全数	不登校数	対全児童%	特徴別割合%	全数	不登校数	対全児童%	特徴別割合%	全数	不登校数	対全児童%	特徴別割合%	
医療機関受診不問	自閉スペクトラム症	67	3	0.3%	4.5%	18	0	0.0%	0.0%	85	3	0.2%	3.5%
	注意欠如多動症	20	1	0.1%	5.0%	1	0	0.0%	0.0%	21	1	0.1%	4.8%
	コミュニケーション障害	4	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	4	0	0.0%	0.0%
	学習障害	11	0	0.0%	0.0%	5	0	0.0%	0.0%	16	0	0.0%	0.0%
	精神遅滞	16	1	0.1%	6.3%	9	0	0.0%	0.0%	25	1	0.1%	4.0%
	その他	5	1	0.1%	20.0%	2	1	0.1%	50.0%	7	2	0.1%	28.6%
	境界域知能	5	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	6	0	0.0%	0.0%
	不明	13	0	0.0%	0.0%	7	0	0.0%	0.0%	20	0	0.0%	0.0%
	計	141	6	0.6%	4.7%	44	1	0.1%	2.5%	184	7	0.4%	4.1%
	医療機関受診あり	自閉スペクトラム症	54	2	0.2%	3.7%	12	0	0.0%	0.0%	66	2	0.1%
注意欠如多動症		8	1	0.1%	12.5%	0	0	0.0%	-	8	1	0.1%	12.5%
コミュニケーション障害		0	0	0.0%	-	1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%
学習障害		1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%	3	0	0.0%	0.0%
精神遅滞		6	1	0.1%	16.7%	5	0	0.0%	0.0%	11	1	0.1%	9.1%
その他		1	1	0.1%	100.0%	1	0	0.0%	0.0%	2	1	0.1%	50.0%
境界域知能		1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%
計		71	5	0.5%	8.3%	22	0	0.0%	0.0%	93	5	0.3%	6.3%

表5 反抗挑戦性障害(ODD)の特徴

特徴の種類別	男 (全児童数 n=916)				女 (全児童数 n=826)				合計 (全児童数 n=1742)				
	全数	ODD	対全児童%	特徴別割合%	全数	ODD	対全児童%	特徴別割合%	全数	ODD	対全児童%	特徴別割合%	
医療機関受診不問	自閉スペクトラム症	67	11	1.2%	16.4%	18	0	0.0%	0.0%	85	11	0.6%	12.9%
	注意欠如多動症	20	2	0.2%	10.0%	1	0	0.0%	0.0%	21	2	0.1%	9.5%
	コミュニケーション障害	4	0	0.0%	0.0%	1	1	0.1%	100.0%	4	1	0.1%	20.0%
	学習障害	11	0	0.0%	0.0%	5	0	0.0%	0.0%	16	0	0.0%	0.0%
	精神遅滞	16	4	0.4%	25.0%	9	0	0.0%	0.0%	25	4	0.2%	16.0%
	その他	5	1	0.1%	20.0%	2	0	0.0%	0.0%	7	1	0.1%	14.3%
	境界域知能	5	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	6	0	0.0%	0.0%
	不明	13	0	0.0%	0.0%	7	0	0.0%	0.0%	20	0	0.0%	0.0%
	計	141	18	1.9%	12.8%	44	1	0.1%	2.3%	184	19	1.1%	10.3%
	医療機関受診あり	自閉スペクトラム症	54	7	0.8%	13.0%	12	0	0.0%	0.0%	66	7	0.4%
注意欠如多動症		8	1	0.1%	12.5%	0	0	0.0%	-	8	1	0.1%	12.5%
コミュニケーション障害		0	0	0.0%	-	1	1	0.1%	100.0%	1	1	0.1%	100.0%
学習障害		1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%	3	0	0.0%	0.0%
精神遅滞		6	1	0.1%	16.7%	5	0	0.0%	0.0%	11	1	0.1%	9.1%
その他		1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%
境界域知能		1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%
計		71	9	1.0%	12.7%	22	1	0.1%	4.5%	93	10	0.6%	10.8%

表6 素行障害 (CD) の特徴

特徴の種類別	男 (全児童数 n=916)				女 (全児童数 n=826)				合計 (全児童数 n=1742)				
	全数	CD	対全児童%	特徴別割合%	全数	CD	対全児童%	特徴別割合%	全数	CD	対全児童%	特徴別割合%	
医療機関受診不問	自閉スペクトラム症	67	2	0.2%	3.0%	18	0	0.0%	0.0%	85	2	0.1%	2.4%
	注意欠如多動症	20	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	21	0	0.0%	0.0%
	コミュニケーション障害	4	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	4	0	0.0%	0.0%
	学習障害	11	0	0.0%	0.0%	5	0	0.0%	0.0%	16	0	0.0%	0.0%
	精神遅滞	16	0	0.0%	0.0%	9	0	0.0%	0.0%	25	0	0.0%	0.0%
	その他	5	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%	7	0	0.0%	0.0%
	境界域知能	5	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	6	0	0.0%	0.0%
	不明	13	0	0.0%	0.0%	7	0	0.0%	0.0%	20	0	0.0%	0.0%
	計	141	2	0.2%	1.4%	44	0	0.0%	0.0%	184	2	0.1%	1.1%
	医療機関受診あり	自閉スペクトラム症	54	2	0.2%	3.7%	12	0	0.0%	0.0%	66	2	0.1%
注意欠如多動症		8	0	0.0%	0.0%	0	0	0.0%	-	8	0	0.0%	0.0%
コミュニケーション障害		0	0	0.0%	-	1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%
学習障害		1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%	3	0	0.0%	0.0%
精神遅滞		6	0	0.0%	0.0%	5	0	0.0%	0.0%	11	0	0.0%	0.0%
その他		1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%
境界域知能		1	0	0.0%	0.0%	1	0	0.0%	0.0%	2	0	0.0%	0.0%
計		71	2	0.2%	2.8%	22	0	0.0%	0.0%	93	2	0.1%	2.2%

表 7-1 医療機関調査 診断名内訳

	男 (n=70)			女 (n=18)			合計 (n=88)		
	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合
自閉スペクトラム症	58	6.3%	82.9%	15	1.8%	83.3%	73	4.2%	83.0%
注意欠如多動症	12	1.3%	17.1%	2	2.9%	11.1%	14	0.8%	16.0%
コミュニケーション障害	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
学習障害	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
精神遅滞	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	5.6%	1	0.1%	1.4%
その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	70	4.6%	100%	18	2.2%	100%	88	5.1%	100%

表 7-2 医療機関調査 診断時年齢

診断時年齢	男 (n=70)		女 (n=18)		合計 (n=88)	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
就学前	36	51.4%	5	27.8%	41	46.6%
1年生	7	10.0%	4	22.2%	11	12.5%
2年生	5	7.1%	2	11.1%	7	8.0%
3年生	6	8.6%	2	11.1%	8	9.1%
4年生	8	11.4%	3	16.7%	11	12.5%
5年生	7	10.0%	1	5.6%	8	9.1%
6年生	1	1.4%	1	5.6%	2	2.3%
計	70	100%	18	100%	88	100%

表 7-3 医療機関調査 診断時年齢 (診断別)

診断時 年齢	自閉スペクトラム症 (n=73)						注意欠如多動症 (n=14)						コミュニケーション障害 (n=0)					
	男 (n=58)		女 (n=15)		合計 (n=73)		男 (n=12)		女 (n=2)		合計 (n=14)		男 (n=0)		女 (n=0)		合計 (n=0)	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
就学前	34	58.6%	4	26.7%	38	52.1%	2	16.7%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1年生	6	10.3%	3	20.0%	9	12.3%	1	8.3%	1	50%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年生	5	8.6%	2	13.3%	7	9.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3年生	4	6.9%	1	6.7%	5	6.8%	2	16.7%	1	50.0%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4年生	6	10.3%	3	20.0%	9	12.3%	2	16.7%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5年生	3	5.2%	1	6.7%	4	5.5%	4	33.3%	0	0.0%	4	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6年生	0	0.0%	1	6.7%	1	1.4%	1	8.3%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	58	100%	15	100%	73	100%	12	100%	2	100%	14	100%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

診断時 年齢	学習障害 (n=0)						精神遅滞 (n=1)						その他 (n=0)					
	男 (n=0)		女 (n=0)		合計 (n=0)		男 (n=0)		女 (n=1)		合計 (n=1)		男 (n=0)		女 (n=0)		合計 (n=0)	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
就学前	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100%	1	100%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100%	1	100%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表8 医療機関調査 併存症診断

全IQ(n=88)												
	男(n=70)			女(n=18)			合計(n=88)					
	実数	診断別割合	種別割合	実数	診断別割合	種別割合	実数	診断別割合	種別割合	実数	診断別割合	種別割合
自閉スペクトラム症 (n=73)	単独	34	58.6%	48.6%	11	73.3%	61.1%	45	61.6%	51.1%	51.1%	
	注意欠如多動症	22	37.9%	31.4%	4	26.7%	22.2%	26	35.6%	29.5%	29.5%	
	その他	2	3.4%	2.9%	0	0.0%	0.0%	2	2.7%	2.3%	2.3%	
注意欠如多動症 (n=14)	単独	10	83.3%	14.3%	1	50.0%	5.6%	11	78.6%	12.5%	12.5%	
	その他	2	16.7%	2.9%	1	50.0%	5.6%	3	21.4%	3.4%	3.4%	
コミュニケーション障害単独 (n=0)		0	-	0.0%	0	-	0.0%	0	-	0.0%	0.0%	
学習障害単独 (n=0)		0	-	0.0%	0	-	0.0%	0	-	0.0%	0.0%	
精神遅滞単独 (n=1)		0	0.0%	0.0%	1	100%	0.0%	1	100%	1.1%	1.1%	
計		70	-	100%	18	-	100%	88	-	100%	100%	

IQ70以上(n=69)																			
	男(n=57)			女(n=12)			合計(n=69)												
	実数	診断別割合	種別割合	実数	診断別割合	種別割合	実数	診断別割合	種別割合	実数	診断別割合	種別割合							
自閉スペクトラム症	単独	11	91.7%	84.6%	5	100%	83.3%	11	91.7%	84.2%	23	50.0%	40.4%	6	60.0%	50.0%	29	51.8%	42.0%
	注意欠如多動症	1	8.3%	7.7%	0	0.0%	0.0%	1	8.3%	5.3%	21	45.7%	36.8%	4	40.0%	33.3%	25	44.6%	36.2%
	その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	2	4.3%	3.5%	0	0.0%	0.0%	2	3.6%	2.9%
注意欠如多動症	単独	1	100%	7.7%	0	0.0%	0.0%	1	100%	5.3%	9	81.8%	15.8%	1	50.0%	8.3%	10	76.9%	14.5%
	その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	2	18.2%	3.5%	1	50.0%	8.3%	3	23.1%	4.3%
精神遅滞単独		0	0.0%	%	1	100%	16.6%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計		13	-	100%	6	-	100%	19	-	100%	57	-	100%	12	-	100%	69	-	100%

表 9-1 教育機関調査(H25-30年度) 発達の遅れや偏りのある児童生徒の学年別特徴種別、対全児童数および種別割合

	小1						小2											
	男 (n=518)			女 (n=530)			合計 (n=1048)			男 (n=1006)			女 (n=921)			合計 (n=1927)		
	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合
自閉スペクトラム症	42	8.1%	61.8%	6	1.1%	30.0%	48	4.6%	54.5%	84	8.4%	51.2%	16	1.7%	34.0%	100	5.2%	47.4%
注意欠如多動症	13	2.5%	19.1%	2	0.4%	10.0%	15	1.4%	17.0%	36	3.6%	22.0%	2	0.2%	4.3%	38	2.0%	18.0%
コミュニケーション障害	6	1.2%	0.0%	3	0.6%	15.0%	9	0.9%	10.2%	13	1.3%	7.9%	5	0.5%	10.6%	18	0.9%	8.5%
学習障害	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	9	0.9%	5.5%	12	1.3%	25.5%	21	1.1%	10.0%
精神遅滞	5	1.0%	7.4%	8	1.5%	40.0%	13	1.2%	14.8%	15	1.5%	9.1%	10	1.0%	21.3%	25	1.3%	11.8%
その他	2	0.4%	2.9%	1	0.2%	0.0%	3	0.3%	3.4%	7	0.7%	4.3%	2	0.2%	4.3%	9	0.5%	4.3%
境界域知能	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	68	13.1%	100%	20	3.8%	100%	88	8.4%	100%	164	16.3%	100%	47	5.1%	100%	211	11.0%	100%

	小3						小4											
	男 (n=965)			女 (n=867)			合計 (n=1832)			男 (n=1100)			女 (n=983)			合計 (n=2083)		
	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合
自閉スペクトラム症	74	7.7%	47.7%	16	1.9%	40.0%	90	4.9%	46.2%	85	7.7%	48.9%	20	2.0%	46.5%	105	5.0%	48.4%
注意欠如多動症	48	5.0%	31.0%	3	0.4%	7.5%	51	2.8%	26.2%	41	3.7%	23.6%	5	0.5%	11.6%	46	2.2%	21.2%
コミュニケーション障害	6	0.6%	3.9%	2	0.2%	5.0%	8	0.4%	4.1%	5	0.5%	2.9%	1	0.1%	2.3%	6	0.3%	2.8%
学習障害	13	1.4%	8.4%	9	1.0%	22.5%	22	1.2%	11.3%	23	2.1%	13.2%	4	0.4%	9.3%	27	1.3%	12.4%
精神遅滞	9	0.9%	5.8%	7	0.8%	17.5%	16	0.9%	8.2%	17	1.6%	9.8%	11	1.1%	25.6%	28	1.3%	12.9%
その他	5	0.5%	3.2%	3	0.4%	7.5%	8	0.4%	4.1%	3	0.3%	1.7%	2	0.2%	4.7%	5	0.2%	2.3%
境界域知能	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	155	16.1%	100%	40	4.6%	100%	195	10.6%	100%	174	15.8%	100%	43	4.4%	100%	217	10.4%	100%

	小5												小6								
	男 (n=925)				女 (n=845)				合計 (n=1770)				男 (n=916)			女 (n=826)			合計 (n=1742)		
	実数	対全児童数	種別割合	実数	対全児童数	種別割合	実数	対全児童数	種別割合	実数	対全児童数	種別割合	実数	対全児童数	種別割合	実数	対全児童数	種別割合	実数	対全児童数	種別割合
自閉スペクトラム症	94	10.2%	63.1%	17	2.0%	34.0%	111	6.3%	55.8%	67	7.3%	47.5%	18	2.2%	40.9%	85	4.9%	46.2%			
注意欠如多動症	23	2.5%	15.4%	3	0.4%	6.0%	26	1.5%	13.1%	20	2.2%	14.2%	1	0.1%	2.3%	21	1.2%	11.4%			
コミュニケーション障害	4	0.4%	2.7%	4	0.5%	8.0%	8	0.5%	4.0%	4	0.4%	2.8%	1	0.1%	2.3%	5	0.3%	2.7%			
学習障害	7	0.8%	4.7%	11	1.3%	22.0%	18	1.0%	9.0%	11	1.2%	7.8%	5	0.6%	11.4%	16	0.9%	8.7%			
精神遅滞	15	1.6%	10.1%	10	1.2%	20.0%	25	1.4%	12.6%	16	1.7%	11.3%	9	1.1%	20.5%	25	1.4%	13.6%			
その他	6	0.7%	4.0%	5	0.6%	10.0%	11	0.6%	5.5%	5	0.5%	3.5%	2	0.2%	4.5%	7	0.4%	3.8%			
境界域知能	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	5	0.5%	3.5%	1	0.1%	2.3%	6	0.3%	3.3%			
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	13	0.4%	9.2%	7	0.8%	15.9%	20	1.1%	10.9%			
計	149	16.1%	100%	50	5.9%	100%	199	11.2%	100%	141	15.4%	100%	44	5.3%	100%	184	10.6%	100%			

表 9-2 教育機関調査 (H25-30 年度) 発達の遅れや偏りのある児童生徒の不登校

	小2 (n=1927)				小3 (n=1832)				小4 (n=2083)				小5 (n=1770)				小6 (n=1742)				
	実数	不登校数	対全児童数	実数	不登校数	対全児童数	実数	不登校数	対全児童数	実数	不登校数	対全児童数	実数	不登校数	対全児童数	実数	不登校数	対全児童数	実数	不登校数	対全児童数
	自閉スペクトラム症	100	1	0.1%	90	4	0.2%	105	3	0.1%	111	4	0.2%	85	3	0.2%					
注意欠如多動症	38	0	0.0%	51	0	0.0%	46	0	0.0%	26	0	0.0%	21	1	0.1%						
コミュニケーション障害	18	0	0.0%	8	0	0.0%	6	0	0.0%	8	0	0.0%	4	0	0.0%						
学習障害	21	0	0.0%	22	1	0.1%	27	0	0.0%	18	1	0.1%	16	0	0.0%						
精神遅滞	25	0	0.0%	16	0	0.0%	28	0	0.0%	25	0	0.0%	25	1	0.1%						
その他	9	0	0.0%	8	0	0.0%	5	0	0.0%	11	1	0.1%	7	2	0.1%						
境界域知能	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	6	0	0.0%						
不明	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	20	0	0.0%						
計	211	1	0.1%	195	5	0.3%	217	3	0.1%	199	6	0.3%	184	7	0.4%						

表 9-3 医療機関調査 (H25-30 年度)

	小 2						小 5											
	男 (n=83)			女 (n=23)			合計 (n=106)			男 (n=71)			女 (n=19)			合計 (n=90)		
	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合
自閉スペクトラム症	73	7.3%	88.0%	18	2.0%	78.3%	91	4.7%	85.8%	62	6.7%	87.3%	13	1.5%	68.4%	75	4.2%	83.3%
注意欠如多動症	7	0.7%	8.4%	1	0.1%	4.3%	8	0.4%	7.5%	7	0.8%	9.8%	4	0.5%	21.0%	11	0.6%	12.2%
コミュニケーション障害	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
学習障害	1	0.1%	1.2%	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	0.9%	1	0.1%	1.4%	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	1.1%
精神遅滞	1	0.1%	1.2%	4	0.4%	17.4%	5	0.3%	4.7%	1	0.1%	1.4%	2	0.2%	10.5%	3	0.2%	3.3%
その他	1	0.1%	1.2%	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	0.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	83	8.3%	100%	23	2.5%	100%	106	5.5%	100%	71	7.7%	100%	19	2.2%	100%	90	5.1%	100%

	小 6								
	男 (n=70)			女 (n=18)			合計 (n=88)		
	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合	実数	対全児童割合	種別割合
自閉スペクトラム症	58	6.3%	82.9%	15	1.8%	83.3%	73	4.2%	83.0%
注意欠如多動症	12	1.3%	17.1%	2	0.2%	11.1%	14	0.8%	16.0%
コミュニケーション障害	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
学習障害	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	5.6%	0	0.0%	0.0%
精神遅滞	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	0.1%	1.4%
その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
不明	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	70	7.6%	100%	18	2.2%	100%	88	5.1%	100%